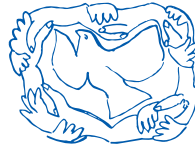




2020 年 5 月

和泉書院

新刊のご案内



中古文学会会員の皆様へ

平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
この度は書籍展示会場でお会いできず誠に残念ですが、
このような形で新刊のご案内をいたしたく存じます。
今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

◆ ご注文方法 ◆

- お電話・FAX・メール・小社 HP よりご注文いただけます。
- 書籍はクロネコヤマト宅急便でお送りいたします。
- 郵便振替用紙を同梱いたします。
- お送り先のお名前、ご住所、お電話番号をお知らせください。
- 中古文学会会員である旨を必ずお知らせください。
- 本体価格 3,000 円以上の場合、送料はサービスいたします。
- 公費、私費の区別をお知らせください。
- 公費の場合、公文書の宛名、納品書・見積書・請求書の部数、日付の有無、
をお知らせください。

TEL 06-6771-1467 / FAX 06-6771-1508

メールアドレス izumisyo@silver.ocn.ne.jp

HP アドレス <http://izumipb.co.jp>

営業、広報担当：廣橋まで

定価 本体 8,000 円＋税

A5 上製・266 頁

2020 年 4 月上旬刊行

研究叢書 522

源氏物語に限らず、平安文学の本文研究に
関心がある研究者必携の書二〇一四年十一月十五日、中文学会関西西部会主催のシンポジウム
「源氏物語 本文研究の可能性」をもとにした成果。二〇〇八年に行われた「源氏物語千年記念シンポジウム」による
『大島本源氏物語の再検討』に続いて、多様な観点から源氏物語の本
文研究の可能性を探る意欲的な論文六編を収録。源氏物語
本文研究の可能性

中文学会関西西部会編

岡寫偉久子 加藤洋介 新美哲彦

上野英子 久保木秀夫 横井孝

緒言

「平瀬本源氏物語」巻末記事と「尾州家河内本源氏物語」

―付稿「平瀬本源氏物語」の書誌学的考察―

岡寫偉久子

河内本・別本から見た定家本源氏物語

加藤洋介

大島本『源氏物語』と東海大学蔵伝明融筆『源氏物語』の
比較から見えるもの

新美哲彦

明融本源氏物語を通して覗く室町期寄合書きの一実態

上野英子

『源氏物語』の巻別本々研究の可能性―石水博物館蔵「早蕨」

丁子吹き装飾料紙一帖の紹介を兼ねて―

久保木秀夫

源氏物語鎌倉期本文の可能性

横井孝

中文学会関西西部会
岡寫偉久子 加藤洋介 新美哲彦
上野英子 久保木秀夫 横井孝
源氏物語 本文研究の可能性源氏物語本文研究の新たな可能性を切り開く
2020年4月上旬刊行、中文学会関西西部会主催のシンポジウム
「源氏物語 本文研究の可能性」をもとにした成果。
二〇〇八年に行われた「源氏物語千年記念シンポジウム」による
『大島本源氏物語の再検討』に続いて、多様な観点から源氏物語の本
文研究の可能性を探る意欲的な論文六編を収録。
紙背裏面に「源氏物語本文研究の新たな可能性を切り開く」の巻末記事と
「尾州家河内本源氏物語」の書誌学的考察の付稿が掲載されている。岡寫偉久子 (おかじま いくこ) 天理大学附属天理図書館
稀書目録室長
加藤洋介 (かとう ようすけ) 関西大学教授
新美哲彦 (にいみ あきひこ) 早稲田大学教授
上野英子 (うえの えいこ) 実践女子大学教授
久保木秀夫 (くぼき ひでお) 日本大学教授
横井孝 (よこい たかし) 実践女子大学教授

貴店番線印

『源氏物語 本文研究の可能性』

定価 本体 8,000 円＋税

ISBN 978-4-7576-0955-6

冊

お名前・御住所・TEL

図書出版 和泉書院

〒543-0037

大阪市天王寺区上之宮町7-6

TEL 06-6771-1467

FAX 06-6771-1508

平安時代の漢詩の表現世界を追求する十四篇の論考を収めた著者二冊目の論文集。勅撰漢詩集の時代、菅原道真の漢詩の新解釈、「三蹟」と漢詩の世界、院政期漢詩と『白氏文集』、飲酒詩や笈の詩歌などに言及する。

日本文学—中古・和漢比較

定価 本体 8,500 円＋税

A5 上製・304 頁

2019 年 9 月上旬刊行

研究叢書 514

本間洋一 著

王朝漢詩叢攷

【目次】

第1章 嵯峨帝と漢詩人達

嵯峨帝と文人賦詩／『凌雲新集』『文華秀麗集』『経国集』の詩人達 他

第2章 『菅家文章』をめぐる

菅原道真没後二一〇〇年に向けて

『菅家文章』『菅家後集』研究への期待／『菅家文章』の本文をめぐる 他

第3章 菅原道真の漢詩解釈臆説

交遊詩をめぐる

傷藤進士呈東閣諸執事詩をめぐる／謁河州藤員外刺史聊叙所懷敬以奉呈詩をめぐる 他

第4章 『菅家文章』断章

漢詩の本文と解釈をめぐる覚書

本文の誤字をめぐる／『会安秀才餞舍兄防州』詩をめぐる 他

第5章 宮廷文学と書—「三蹟」と詩人をめぐる劄記—

書蹟を売る女／『屏風土代』の本文をめぐる 他

第6章 『屏風土代』を読む

大江朝綱の漢詩をめぐる

「春日山居」詩／「尋春花」詩／「惜残春」詩／「林塘避暑」詩／「山中自述」詩 他

第7章 『本朝無題詩』と白詩

『白氏文集』を常に握翫すべし／『無題詩』と白詩／故事享受への視点 他

本間洋一（ほんま・よういち）

早稲田大学教育学部卒業。中央大学大学院文学研究科博士後期課程中退。博士（文学）。同志社女子大学名誉教授。〈専攻〉日本文学・和漢比較文学・書道文化史・書表現〈主要編著書〉『本朝無題詩全注釈』注釈篇三冊、『類題古詩本文と索引』（以上、新典社）『文鳳抄』歌論歌学集成別巻二（三弥井書店）『凌雲集索引』『王朝漢文学表現論考』『本朝蒙求の基礎的研究』『類聚句題抄全注釈』『墨筆帖』『桑華蒙求の基礎的研究』（以上、和泉書院）他。

第8章 院政期漢詩と白詩をめぐる劄記

『江談抄』から／『中右記部類紙背漢詩』をめぐる／「上陽春」異聞 他

第9章 王朝漢詩の飲酒詠管見

語彙・故事をめぐる覚書として

上代の飲酒詠／勅撰漢詩集の時代の飲酒詠／島田忠臣から菅原道真へ 他

第10章 白居易の飲酒詩と平安朝漢詩

勸酒と禁酒／飲酒詠の表現と語彙をめぐる／飲酒詩の摘句をめぐる 他

第11章 漢詩とその背景—北東アジア史の一齣から—

嵯峨天皇から菅原道真へ／海外からのまなざし／聖世矜持／悲運の僧 他

第12章 王朝漢詩と海彼

東アジアの漢詩をめぐる臆説

崔致遠をめぐる／宋と本朝 他

第13章 笈（かけひ）の見える風景—漢詩と和歌と—

平安朝和歌の「かけひ」／禪林の漢詩詠 他

第14章 日本文学と中国古典漢詩をめぐる断章

近代の詩歌から／菅原道真の漢詩から／「登楼賦」をめぐる 他

索引（人名索引／書名・詩題索引）

あとがき

貴店番線印

注文書

『王朝漢詩叢攷』

定価 本体 8,500 円＋税 ISBN 978-4-7576-0915-0

冊

お名前・御住所・TEL

図書出版 和泉書院

〒543-0037

大阪市天王寺区上之宮町 7-6

TEL 06-6771-1467

FAX 06-6771-1508

古記録を歴史資料でも文学作品としてでもなく、
言葉によって織りなされたテキストとして論じる日本文学・日本史
— 中古・中世定価 本体 8,500 円 + 税
A5 上製・370 頁
2019 年 11 月刊行
研究叢書 516

中丸貴史 著

『後二条師通記』論

— 平安朝〈古記録〉というテキスト —

(なかまる たかふみ)

防衛大学校人文社会科学群人間文化
学科准教授。博士(日本語日本文学)。
学習院大学大学院人文科学研究科日
本語日本文学専攻博士後期課程修了。
編著書『時範記逸文集成』(共編)。

◆ 本書は古記録を、その内部の論

理のみならず、他のテキストと
の関係のなかからとらえ、平安
朝の言説の一端を明らかにしよ
うという試みである。

◆ 関白藤原師通の『後二条師通記』

は、院政期初頭の摂関嫡流の日
記として重要なものである。こ
れをテキスト生成、東アジア古
典世界における日本漢文(学問
と漢籍引用)、論理(私日記の発
生、記憶と記録、語りと筆録)
の三側面から論じる。

◆ 「漢文」で書かれた「日次」の「記

録」の論理と構造を明らかにし、
時代の転換期を生きた記主師通
の言説に迫り、古記録の新たな
研究の視座を示す。

目次

序

第一部 『後二条師通記』生成論

第一章 現在

第二章 二つの本文—永保三年—応徳二年—「はじめ
に—古写本、永保三年・応徳元年・応徳二年の重複記事—
／二、本文A・Bの性格／三、本文B作成の一般性—「中右記
から—四、本文Bが作成されなくなった意味—その後の
『師通記』—五、おわりに第三章 開かれたテキスト—応徳三年—寛治四年—「
はじめに—第二段階に入った『師通記』—／二、委追可入
尋書—ペンディング状態にされた記事—／三、次第為房・
時範記委尋可注之—「為房卿記『時範記』江記『師記』
との関係—／四、「寛治二年秋冬の扉書」の先にあるテキス
トの可能性／五、おわりに第四章 再び二つの本文—寛治五年—「はじめに／
二、伝本の形態／三、本記と別記／四、『師通記』における「別
記」の用例／五、別記作成の一般性／六、おわりに第五章 病と揺らぐテキスト—「はじめに／二、彦根寺
詣／三、心神不例—師通の病—／四、病と夢想／五、嘉保三年、
改め永長元年／六、承徳三年、改め康和元年／七、おわりに第六章 受容と現存—「はじめに／二、日記を秘蔵する
／三、その後の『師通記』—その受容—／四、受容状況と伝本
状況の関係／五、おわりに

第二部 東アジア古典世界のなかの『後二条師通記』

第一章 師通の学習記録—「はじめに—「本朝世紀」師通

薨伝—／二、永保三年—応徳二年—「春秋左氏伝」礼記「文
選」論語—／三、応徳三年—寛治四年—「漢書」後漢書
—／四、寛治五年—寛治六年—「毛詩」後漢書—／五、寛
治七年以降—「後漢書」史記「白氏文集」—／六、おわりに
第二章 日記叙述と漢籍—謝惠連「雪賦」をめぐる諸相—はじめに／二、撰関家の日記／三、本文Bの詩的表現／四、謝惠
連「雪賦」(「文選」引用／五、寛治五年という年／六、おわりに
第三章 師通の白詩受容—「はじめに／二、白詩語「廻
眸」／三、師通と「白氏文集」／四、山寺詩と「廻眸」／五
漢語「廻眸」和語「見わたせば」／六、おわりに—再び「師
通記」寛治四年十二月二十四日条—第四章 寛治五年「曲水宴」関連記事における唱和記録
—「はじめに／二、寛治五年三月十七日条別記／三、寛治五
年の曲水宴／四、裏書に書かれた唱和／五、おわりに—師
通と俊房の唱和—第五章 師通の漢籍〈知〉と匡房・通俊「声と文字との往還—
「はじめに／二、『師通記』寛治六年七月二十日条における
「蹊田奪牛」故事／三、『江記』寛治七年十月一日条における
「蹊田奪牛」故事／四、漢籍における「蹊田奪牛」故事／五
定文を書く—声から文字へ—／六、匡房と通俊—「もの書
く宰相」たちの〈知〉的闘争—／七、おわりに

附章 漢籍引用・拔書二覧／附表 漢籍関連記事一覧

第三部 〈古記録〉の論理

第一章 私日記の発生と展開—「はじめに／二、国史と

外記日記／三、外記日記と私日記／四、おわりに
第二章 記憶と記録—中宮賢子の死、および「永長の大田楽」
をめぐる—「はじめに／二、記憶／忘却／三、記憶の現
在と書くこと／四、日次記／非日次記—「師通記」二つの本
文—／五、「日次」の方法—嘉保三年六月の「師通記」中右記—
／六、「記」の方法—「洛陽田楽記」—／七、おわりに第三章 語りと筆録—記さざる人・頼通の言説—「はじめ
に／二、先例故実の引勘とその材料／三、口伝とその構造
—「師通記」における頼通の言説—／四、日記の家としての
撰関家の始発—頼通と日記—／五、おわりに—書かれた口
伝を隠蔽する—

結／索引(人名・研究者名・書名・古記録言及引用箇所)

冊

『後二条師通記』論—平安朝〈古記録〉というテキスト—
定価 本体 8,500 円 + 税 I S B N 978-4-7576-0937-2

お名前・御住所・TEL

図書出版 和泉書院

〒543-0037

大阪市天王寺区上之宮町7-6

TEL 06-6771-1467

FAX 06-6771-1508

貴店番線印

日本文学—中古～中世
和歌定価 本体 16,000 円＋税
A5 上製・612 頁
2020 年 2 月刊行
研究叢書 518

佐藤明浩（さとう あきひろ）
一九六一年生。大阪大学文学部卒業、同大学院文学研究科
博士後期課程退学。
現在、都留文科大学文学部教授。
研究業績、「後葉和歌集の誹諧歌」（『詞林』三）、「題の拡充
と題詠の深化—恋題を中心に院政期から新古今前後まで—」
（『論集（題）の和歌空間』笠間書院）、「長明文宇鑑」（校注、
共著、『日本古典偽書叢刊 第1巻』現代思潮社）、「源氏物語
の書かれた和歌」（小嶋菜温子・渡部泰明編『源氏物語と和歌』
青簡舎）他。

佐藤 明浩著

院政期和歌文学の
基層と周縁

I 部では、源俊賴、為忠家両度百首、久安百首などの和歌作品、藤原
俊成などの歌論・歌学の言説、藤原定家編『八代抄』などを取り上げ、
それぞれの詠歌、述説、また編纂の具体相、特徴を解明する。

II 部では、稲の品種名、官職名など、和歌に用いられるには比較的珍
しいことばについて検討し、それらがいかんにして和歌表現の構成要素に
なりえているのかを考察する。

III 部では、和歌が学ばれる場や和歌が作られる場によりおこされる「古
歌」のありようを観察して、往時の人たちの和歌のとらえ方を探り、また、
「本歌」についての考究をとおして、往時の理解鑑賞のあり方を想定した
解釈を試み、当時の感覚、認識に近づいていく方途とする。

序章

I 部 和歌作品と歌学・歌論と

第一章 「はす」を詠む和歌

第二章 源俊賴の歌学知識と和歌実作

第三章 行尊の和歌表現—地名詠と擬人法と—

第四章 『為忠家両度百首』に関する考察

第五章 『久安百首』と歌学—詠歌の場としての定数歌—

第六章 『久安百首』部類本考

第七章 『久安百首』部類本と『千載和歌集』の配列構成

第八章 『御裳濯河歌合』の構成と俊成入道の判

第九章 藤原俊成の和歌史観と批評態度

第十章 「かはやしろ」の論争をめぐる

第十一章 定家『八代抄』夏部の配列構成をめぐる

II 部 和歌のことば

第十二章 稲の名を詠む歌

第十三章 稲の名を詠む源俊賴の和歌

第十四章 藤原清輔の「ながひこ」詠をめぐる

第十五章 『和歌初学抄』物名「稲」の窓から

第十六章 歌語「ありそ」「あらいそ」考

第十七章 官職名を詠む和歌

第十八章 「かげなびく」考—大臣在任を表す歌ことば—

III 部 「古歌」「本歌」をめぐる

第十九章 「近頃の歌」との類似をめぐる—歌合判詞にみる認識—

第二十章 歌合判詞における「古歌なり」をめぐる

第二十一章 歌合に古歌を詠むこと

第二十二章 「古歌」の再生ということ

第二十三章 藤原家隆の先行歌撰取

第二十四章 「さののわたり」の遠景—本歌取りへの一視角—

第二十五章 『新古今和歌集』の「里はあれて」歌「玉の緒よ」歌考

終章

初出一覧

索引（人名索引・和歌索引）

あとがき

貴店番線印

『院政期和歌文学の基層と周縁』

定価 本体 16,000 円＋税 ISBN 978-4-7576-0945-7

冊

お名前・御住所・TEL

図書出版 和泉書院

〒543-0037

大阪市天王寺区上之宮町7-6

TEL 06-6771-1467

FAX 06-6771-1508

日本文学— 中古
和歌定価 本体 18,000 円 + 税
B5 上製・600 頁
2020 年 2 月刊行
研究叢書 519藏中さやか
黒田 彰子 編
中村 文

奥義抄古鈔本集成

平安後期歌壇の権威藤原清輔が著した歌学書『奥義抄』は、平安期歌学を集大成した、六条藤家歌学の到達点を示す重要な著作。

完本たる慶應義塾図書館蔵本、上中下巻を具備する寛正三年（一四六二）写の大東急記念文庫蔵本、ならびに、残闕本ながら古態をのこす鎌倉・室町期書写本を含む全十一伝本の翻刻を収録。

諸伝本を簡便に対校しうる本書により、『奥義抄』本文系統の再検討はもとより、原態の復元を通して、平安後期歌界の実相や和歌をめぐる知の世界を考究する上でも意義深い資料を提供するものである。

※内容目次※

翻刻——全十一伝本

慶應義塾図書館蔵『奥義抄』

国立公文書館内閣文庫蔵『奥義抄』

京都女子大学図書館蔵『奥義抄』（吉澤文庫）

大東急記念文庫蔵『奥義抄』

国立歴史民俗博物館蔵『和歌伝』

宮内庁書陵部蔵『奥義抄』（梶井宮本）

冷泉家時雨亭文庫蔵『奥義抄 下巻余』

国立歴史民俗博物館蔵『奥義抄 卷上』

前田育徳会尊経閣文庫蔵『和歌問答』

天理大学附属天理図書館蔵『奥義抄下巻餘』

国立公文書館内閣文庫蔵『古今和歌灌頂部』

注／略解題／所載歌一覧／句索引

藏中さやか（くらなか さやか）
神戸女学院大学教授。博士（国文学）。著書に、『和歌文学大系 48『王朝歌合集』（共著、明治書院）他。

黒田彰子（くろだ あきこ）
佛教大学非常勤講師。博士（日本文学）。著書に、『俊成論のために』『仏教文学概説』（共著）（以上和泉書院）、『和歌童蒙抄注解』（青簡舎）他。

中村 文（なかむら あや）
日本女子大学非常勤講師。博士（文学）。著書に、『後白河院時代歌人伝の研究』（笠間書院）、『和歌文学大系 49『正治二年院初度百首』（共著、明治書院）他。

貴店番線印

『奥義抄古鈔本集成』

定価 本体 18,000 円 + 税 ISBN 978-4-7576-0948-8

冊

お名前・御住所・TEL

図書出版 和泉書院

〒543-0037

大阪市天王寺区上之宮町7-6

TEL 06-6771-1467

FAX 06-6771-1508

上代・中古・中世
和歌・歌論・歌学・日本語史・言語思想

定価 本体 8,500 円＋税
B5 上製・284 頁
2020 年 1 月刊行
索引叢書 54

小松靖彦編著

仙覚『萬葉集註釈』

被注萬葉集歌一覧・被注語句索引

平安・中世の和歌と歌学の広汎な知識に基づく
和歌史・歌論史・歌学史上の成果

十三世紀の天台密教の学僧・仙覚は、『萬葉集』の研究に画期をもたらした。その独自の理念と方法を示す主著『萬葉集註釈』は、平安・中世の和歌と歌学の広汎な知識に基づく和歌史・歌論史・歌学史上の成果である。また、日本語に関する貴重な理論的研究書であり、インドの言語思想によって日本語の根源に迫ろうとした思想書でもある。しかし、近代の研究においては、難解な注釈書として顧みられることがほとんどなかった。

本書は、仙覚が『萬葉集註釈』において言及した萬葉集歌・題詞・前置漢文・漢文序・書簡文・左注などを可能な限り採取し、主要四本における所在位置を示す。また、一音に意味を認めると同時に、ことばの相互関係を重視する仙覚の解釈の方法に沿って被注語句一覧を実験的に作成し、それらを五十音順に配列して所在位置を示す。仙覚が『萬葉集』に見た〈言葉の宇宙〉に近づくための基本的情報を整えたのが本書である。

目次

はしがき

Ⅰ 仙覚『萬葉集註釈』被注萬葉集歌一覧
(付 中世萬葉集古注釈書における萬葉集歌引用状況)

Ⅱ 仙覚『萬葉集註釈』被注語句索引

□ 小松靖彦 (こまつ やすひこ)

1985 年 東京大学文学部卒業。1992 年、東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。
国文学研究資料館研究情報部、和光大学人文学部文学科、日本女子大学文学部日本文学科を経て、現在、青山学院大学文学部日本文学科教授。博士 (文学)。
専攻は日本上代文学 (萬葉集および萬葉学史)、書物学 (主に中国文化圏の卷子本)。

主要著書・編著
『萬葉学史の研究』(おうふう、2007 年、2008 年〈2 刷〉)
『万葉集と日本人』(角川選書、KADOKAWA、2014 年)
『萬葉写本学入門』(編著、上代文学研究法セミナー、笠間書院、2016 年) ほか。

注文書	貴店番線印	『仙覚『萬葉集註釈』被注萬葉集歌一覧・被注語句索引』 定価 本体 8,500 円＋税 ISBN 978-4-7576-0942-6	冊	図書出版 和泉書院 〒543-0037 大阪市天王寺区上之宮町7-6 TEL 06-6771-1467 FAX 06-6771-1508
		お名前・御住所・TEL		

近藤要司著

古代語の疑問表現と感動表現の研究

日本語文法—
上代・中古・中世

定価 本体 13,000 円＋税
A5 上製函入・504 頁
2019 年 3 月刊行
研究叢書 510

近藤要司 (こんどうようじ)

一九八〇年神戸大学大学院文化科学研究科博士課程単位取得退学

修士 (文学)

現在 神戸親和女子大学文学部教授

専攻 日本語文法・日本語文法史

(主要論文)

『万葉集』の「ムカ」について 高山善行・青木博史・福田嘉一郎
編『日本語文法史研究Ⅰ』(分担執筆)

「中古における疑問係助詞ヤの脱疑問化について」神戸親和女子大学総合文化学科『言語文化研究』第一号 他

❖「第一部 疑問係助詞とその表現」では、助詞カ・ヤについて、『万葉集』『源氏物語』『今昔物語集』の用例を調査し、この二つの助詞が、疑問表現を構成する場合とそうでない場合のそれぞれの条件を考察した。

❖「第二部 感動喚体句の諸相」においては、さまざまなタイプの感動喚体句について調査考察を行い、古代語には、一語による感動文とは異質の、古代語独特の感動喚体句の形式があったことを主張している。

まえがき

第一部 疑問係助詞とその表現

序章 疑問係助詞カと疑問係助詞ヤについて

第一章 係助詞カとその表現

上代における助詞カ (カ) について

『万葉集』のカとカモの比較

『万葉集』の助詞カと助動詞ラムについて
文末カモの詠嘆用法について

『万葉集』の「ムカ」について

『万葉集』の「ニカアラム」について

『源氏物語』の助詞カの不定語下接用法について

『源氏物語』の助詞カの文末用法について

『今昔物語集』の文末カモの用法について

第二章 係助詞ヤとその表現

上代から中古にかけての疑問表現形式の変遷

『万葉集』のヤとヤモの比較

『源氏物語』の助詞ヤについて

『源氏物語』の「ニヤ」について

中古における疑問係助詞ヤの脱疑問化について

助詞ヤの文中用法の変遷

詠嘆のコトダロウをめぐる

第二部 感動喚体句の諸相

序章 古代語における感動喚体句の諸相について

第一章 上代の感動喚体句について

『万葉集』の無助詞喚体句について

『万葉集』のハモについて

第二章 中古の感動喚体句について

『源氏物語』の助詞カナについて

『源氏物語』の助詞ヨについて

「をかしの御髪や」型の感動喚体句について

あとがき
事項索引

書店番線印

『古代語の疑問表現と感動表現の研究』

定価 本体 13,000 円＋税 I S B N 978-4-7576-0901-3

冊

お名前・御住所・TEL

図書出版 和泉書院

〒543-0037

大阪市天王寺区上之宮町7-6

TEL 06-6771-1467

FAX 06-6771-1508

日本文学—中古
日本史—古代

四六並製・本文 240 頁

口絵カラー 24 頁

定価 本体 2,600 円 + 税

2019 年 6 月刊行

美しい『竹取物語』奈良絵(2種)——全図カラー掲載

かぐや姫と菅原道真

私の「竹取物語」論

糸井通浩 著

都と鄙(丹後・讃岐)と伊勢をめぐる
『竹取物語』の作品世界

……菅原道真作者説を構想する上で幸いなことに、筆者はそれなりの環境に生活空間を得ていた……。この「都(京・大和)―丹後―讃岐」の三角形、さらに「丹後―伊勢(神宮)」を加えた四角形の繋がりを形成する媒体こそ、『竹取物語』という作品世界であり、「菅原道真」という平安前期の貴族であった。(あとがきより)

糸井通浩(いといみちひろ)

一九三八年京都嵯峨の生まれ。小・中・高時代、丹後(現京丹後市)で育つ。京都大学文学部卒。日本語学・古典文学専攻。愛媛大学助教授を経て、京都教育大学・龍谷大学名誉教授。この間、表現学会代表理事、京丹後市史編纂委員など歴任。主な共編著『日本語表現学を学ぶ人のために』『京都学を楽しむ』他多数。

口絵カラー『竹取物語』中川文庫本・三冊完本

「京都新聞」に37回にわたり好評連載

かぐや姫と菅原道真

- 1 「ものがたり」の誕生 初めて確立したもの「語り」
- 2 作者未詳の意味 説話と違う特定作者の「表現行為」
- 3 道真作者説の可能性 主題・モチーフの関係から
- 4 成立時期 八七五―八九〇年を中心にその前後
- 5 物語の時代と舞台 今は昔、大和に帝がおられたころ
- 6 「竹取の翁」の名前 「讃岐のみやつこ」道真が重要な意味もつ
- 7 讃岐守の時代 都を離れ「文学」に力注ぐ道真
- 8 竹と忌部氏と讃岐 平安初期、氏族間の対立関係が
- 9 竹林への思い 風雪に耐える竹に我が心託す
- 10 命名の由来 既存のことは二つを合わせ
- 11 二人の「かぐや姫」 違いにこそ語りたい主題が
- 12 羽衣伝説の話型 一つは中臣氏ゆかりの始祖伝説
- 13 丹後の羽衣伝説 「竹取と同じ」地名起源譚
- 14 菅原氏の系譜 「塩輪」進言した野見宿禰を遠祖に
- 15 土師氏と丹波(丹後) 巨大古墳築造にかかわる?
- 16 土師氏と間人皇后 「間人」は、地名を称える枕詞
- 17 大和王権と古代丹後 畿内以外で皇統と婚姻、丹後が初
- 18 古代伝承の語り部 菅原系土師氏、皇統伝承管理か
- 19 丹後の三大「前方後円墳」 築造は大和の設計規格に類似
- 20 勘解由曹局 「文学工房」的な環境の中で
- 21 「類聚国史」の編纂 百科事典の類、大変な作業
- 22 月と物思い 「白氏文集」と深いかかわり
- 23 八月十五夜の宴 「家忌」で廃止後も、特別な思い
- 24 月と姫娥伝承 月への昇天のヒントに
- 25 外宮の神と丹後 羽衣伝説の神、伊勢へ迎える

内 容 目 次

- 26 伊勢外宮の神と月 穀物の神、酒の神、水の神
 - 27 外宮祭祀と忌部氏 祭祀成立に直接かわかる
 - 28 斎宮・伊勢と丹後 相似関係 いつきのみや
 - 29 糸で葺いた屋根 邸宅内部に設えられた寝屋
 - 30 大伴御行の漂流と遣唐使 遭難や通商の体験談、描写の元か
 - 31 「斑竹姑娘」の発見 『竹取物語』の原話ではない
 - 32 母は大伴氏の娘 作品の主題は姫の出生と昇天
 - 33 死による絶対的別れ 天上界と人間界の隔絶を描く
 - 34 物語への飛翔 説話から「虚構の語り」へ
 - 35 国風文化の開化と高揚 「うつし」の技法が生んだ成果
 - 36 道真誕生伝説 「竹取」に似た道真の伝承
 - 37 道真作者説の可能性 先祖に土師氏、月に詳しく
- 〔参考〕龍谷大学図書館蔵本・奈良絵本『竹取物語』解題
竹取物語(中川文庫本) 竹取物語(三冊完本)

〈探究ノート〉

『竹取物語』の時代背景

―「享受の精神構造」を掘り起こす―

- 1 表現素材の系譜論・機能論 『竹取物語』を中心にして
 - 2 『竹取物語』の月と姫娥伝説
 - 3 伏見稲荷の神々と丹後の神々
 - 4 羽衣伝説と「真名井」の道
 - 5 地名「間人」について 『はし』という語を中心に
 - 6 『竹取物語』作者圏と菅原道真
- 〔参考〕竹野媛と丹波の五女
〔参考〕丹波(丹後)の語り部

書店番線印

『かぐや姫と菅原道真―私の「竹取物語」論』

定価 本体 2,600 円 + 税 ISBN978-4-7576-0908-2

冊

お名前・御住所・TEL

注文書

図書出版 和泉書院

〒543-0037

大阪市天王寺区上之宮町7-6

TEL 06-6771-1467

FAX 06-6771-1508

定価 本体 2,600 円＋税
四六上製・240 頁
口絵カラー
2019 年 6 月刊行

過去の文芸の享受によって、新たな創作活動が営まれ、
創造的表現行為を通じて、始原の心性が蘇生し継承される、
その相互作用を文学研究の重要な課題として追求する。
「常世の国」「ワタツミの宮」「龍宮」などの異境、その
水の異界から訪れる「童子」と美麗な「女」あるいは
「姫」「ワニ」「龍」「雷」。これらに対する古代・中世の
人々の「畏れ」「敬い」「頼り」「忌み」「憚り」「嫌い」「卑
しみ」「懐かしみ」「懂れる」心のはたらきを読み解き、
表現を得る仕組みを解き明かす。

森 正人 著

龍蛇と菩薩 伝承文学論

- 前書き――本書の主旨
- 第一章 龍蛇と菩薩――救済と守護――
- 一 はじめに／二 龍蛇とは何か／三 三毒の象徴としての龍蛇／四 水辺の龍蛇の死骸の上に建つ寺院／五 霊池に顕現する龍蛇と菩薩
- 第二章 東アジアの龍蛇伝承
- 一 はじめに／二 鷲鷹と龍蛇との闘争／三 龍宮の宝蔵／四 龍鳴の感応／五 龍蛇の聴聞／六 むすび
- 第三章 龍蛇と仏法
- 1 水の童子――道場法師とその末裔――
- 一 はじめに／二 雷の子と分身の誕生／三 童子としての雷神／四 童子・剣・蛇体・雷 五 忌避される童子たち
- 2 能「道成寺」遡源
- 一 はじめに／二 道成寺説話の展開／三 鐘巻の芸能／四 鐘人の原型／五 両義的な龍蛇
- 第四章 龍宮伝承
- 1 東アジアの龍宮訪問譚
- 一 はじめに／二 倭藤太伝承とその先蹤／三 龍蛇報恩と始祖伝承／四 東アジアの基盤的伝承／五 付・ワタツミとワニをめぐる古代の映像
- 2 龍宮乙姫考――御伽草子『浦島』とその基盤――
- 一 はじめに／二 娑羯羅龍王の乙姫／三 厳島の姫神／四 八幡の姉妹神／五 放生報恩と空船／六 乙姫の原像／七 原像と変容
- 第五章 龍蛇と観音
- 1 観音像の背後に立つもの
- 一 はじめに／二 観音の応化／三 先住の神々と観音菩薩／四 亡親としての観音

- 2 龍蛇・観音・母性――説話の変奏と創作――
- 一 はじめに／二 観音霊場と水／三 龍に乗る菩薩／四 実母の亡魂／五 みごもる蛇
- 第六章 檜垣の姫の歌と物語――伝承の水脈――
- 一 はじめに／二 能「檜垣」の姫の原像／三 「みづはくむ」遡源／四 檜垣の姫の詠歌の本意
- 第七章 講義「水の文学誌」――実践の記録――
- 一 はじめに――問題の所在／二 授業中の小レポート／三 「水の文学誌」における道成寺物語／四 小レポートの紹介配布と追加の教材／五 残された課題
- 後書き
- 初出に関する覚書
- 索引

龍蛇と菩薩 伝承文学論 森 正人

古代・中世人の思い描いていた世界、
感じ取っていた存在は、
科学と合理的思考の前に無残に色あせ、
力なく萎えてしまったのか

書、物語、伝説、あるいは絵画、肉体の所有に込められて長く継承されてきた心とその動きを、現代を生きるわれわれの課題として問い直す。

和泉書院

森 正人（もり まさと）
一九四八年生。熊本大学名誉教授。
尚綱大学・尚綱大学短期大学部前学長。
主要著書：『今昔物語集の生成』（和泉書院）、
『今昔物語集 五』（岩波書店）、『古代説話
集の生成』（笠間書院）ほか。

注文書	貴店番線印	『龍蛇と菩薩 伝承文学論』 定価 本体 2,600 円＋税 ISBN 978-4-7576-0911-2	冊	図書出版 和泉書院 〒543-0037 大阪市天王寺区上之宮町7-6 TEL 06-6771-1467 FAX 06-6771-1508
		お名前・御住所・TEL		